

「SYD ボランティア奨励賞」 協和の社会を目指して活動

西九州大学

が一緒に楽しく過ごすことのできる交流の場を提供し、地域社会に貢献すること」を目的にしており、ニュースポーツやレクリエーション、障がい者スポーツなどを通して、幅広い世代の人々と交流を図っている。主な活動場所は地域の公民館や福祉施設、小学校など。2002年の創立以来、年々活動のバリエーションと実施回数を増やしており、15年には100回以上も活動を行ったという。

公益財団法人修養団（本部 東京・渋谷区）の「第10回 SYD ボランティア奨励賞」において、西九州大学（佐賀県神埼市）の学生サークル「ESRD (Enjoy Sports & Recreation Day)」が、「大学・

一般の部」で最高位の「優秀賞」に輝いた。その授賞式が2月6日、SYDホール（東京都渋谷区）で開催された。ESRDサークルは、誰も



清々しい笑顔の集合写真

ニュースポーツには、例えば的入れゲームの「バグゴ」などがある。約6歳先のボードに向かってアンダースローでボールを投げ、得点を争う。ボード間の距離を調節するなどして、性差や年齢差、障がいの有無に関係なく一緒に楽しめるのが特徴だ。また、ジャックボール（目標球）に向かって赤と青それぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたりして近さを競う「ポッチャ」は、パラリンピックの正式種目にもなっている。

サークルの代表として授賞式に出席した健康福祉学部社会福祉学科3年生・青木博孝さん（八女学院高等学校出身）は、これまでの活動を支えてくれた人々に対して感謝の気持ちを示した。そして、「今後も地域に根づいた笑顔あふれる活動を継続していきたい」と、コメントを寄せた。